

## 2022年 東北大学前期日程試験【英語】問題分析

### 1 今年（2022）の傾向

総評・講評（大問毎に）

#### 【総評】

大問は4問構成で、長文読解が2問、会話文に基づく英問英答が1問、記号選択式と記述式を含む英作文が1問である。大問の構成は例年と大きく変わらないが、I・IIの長文読解は英文和訳が減り、説明記述が増えた。また、例年は和文英訳のみであったIVが語句整序、和文英訳、同義文選択という小問構成に変わった。本文の分量はIIが短くなったが、全体としての解答の記述量は昨年度と同程度である。本文の英文は難解な語句や構文があまりない一方で、設問で要求されている条件を満たしつつ解答欄に収まるように要点を絞って説明することに苦勞する問題が多い。

#### 【個別分析設問 I】 長文読解

出典は *Time*, April 26 / May 3, 2021: *Climate Is Everything*。本文の内容は環境難民(an environmental migrant)をめぐる現状を整理し、今後どのようなかたちでこの種の難民を受け入れていくかを論じたもの。長文全体の長さは昨年度の大問1とほぼ同じ。小問は5つで、記号選択が1問、本文から英単語を抜き出して書く問題が1問、説明記述（日本語）が3問。

問1(1) 設問は「環境難民とはどのような人々のことを指すか」を問うているので、第1段落の第2文、第3文で環境難民の例として挙げられている Rift Valley lakes region の数千人の人々の説明から解答を作成する。

(2) 設問は「どのような状況で環境難民になるか」を第2段落の内容に即して解答するように求めている。「状況(situation)」に焦点を当てると、下線部(A)の直前(第2段落第3文)で *it's an impossible situation* と述べられている。また、設問で問われているのは「環境難民になる状況的理由」であると捉え直せば、下線部(A)の直後の *because* 節が状況的理由の説明になる。この2点を軸にしつつ、第2段落後半で述べられている Meyerhoff が置かれている具体的な状況も参照して解答を作成する。

問2 設問は専門家の見方の変化を「変化の前後がわかるように」説明することを求めている。変化前は下線部(B)の直前の文(第4段落第1文)、変化後は下線部(B)の直後(第4段落第2文のセミコロンの後、および第3文)。

問3 下線部(C)を第6段落の内容に即して説明する。下線部は *make (0) them (C1) an asset rather than (C2) a burden* …の構文になっていることに注意が必要。その上で、設問の条件として下線部の *asset* と *burden* の内容を明確にすることが求められているので、それぞれに対応する箇所を特定し(第6段落第1文の

butの前がasset、後がburdenに対応)、その上でhowの具体的内容(第6段落第2文)を述べる。

問4 下線部(D)は「それが優先されるべきなのだ」。主語の that が指す内容は第9段落の下線部の直前(セミコロンの前)。それゆえ、①には adaptationが入る。また、Using money for adaptation と比べて優先されないものは、第9段落第2文で「私たち(発展途上国の人間)に(温室効果ガスの)排出を減らすために資金を使うように言っても意味がない」と述べられていることから、using money to reduce emissions であることがわかる。②は reduce、③が emissions。

問5 内容合致 6つの選択肢の中から2つを選ぶ

(ア) 「Meyerhoff は、単に自分の家を失ったという理由だけから、自分が住んでいた田舎の地域を出なければならなかった」。第2段落第5文のセミコロンの後から、家のすぐ近くまで水が迫っていることはわかるが家が失われたわけではない。また、同段落最終文から今現在、彼女が子どもたちからその地域を出るように頼まれていることから、将来的に出る可能性はあるがまだそこに住んでいることがわかるので、誤り。

(イ) 「環境災害を逃れる人々の数は、軍事衝突を逃れる人々の数の3倍以上も多く、今後30年でさらに増えるだろう」。前半の内容は第3段落第1文の記述に合致。また、後半の内容も同段落第2文の記述に合致。

(ウ) 「2018年のある研究によると、アメリカ合衆国の南部・中西部の住民の12人に1人は、気候変動のために、今後45年間でより影響の少ない地域に移住することを余儀なくされる」。第5段落第2文の記述に合致。

(エ) 「ダッカ、オーランド、フリータウンなどの都市は、国際的な援助による豊富な資金のおかげで、気候適応のための資金を人々が移住するのを助け、社会基盤を整備するのに使用することができた」。第7段落第2文では気候適応のプログラムが通常は地方自治体の財源によるものであることが述べられているので、誤り。

(オ) 「筆者によると、バングラディッシュやケニアは、環境難民のために町を整備するのに資金を使うことに反対している」。第9段落第2文で、バングラディッシュやケニアが「意味がない」と主張しているのは、(温室効果ガスの)排出を減らすために資金を使うことである。同段落第3文では「(環境)適応のための資金が必要だ」と述べているので、誤り。

(カ) 「Oucho は、環境難民は都市で生活する技能を持たずに都市にやってくるべきではない、と述べている」。第10段落第3文で Oucho は環境難民が都市の環境に適應できるように再訓練や技能の伝達が必要だと述べているので、誤り。

【個別分析設問Ⅱ】 長文読解

出典は E. Penfield, *Short Takes: Model Essays for Composition*。文章作成と読解に関する短いエッセーをまとめたもの。本文では、人類が砂の上に絵を描いて他者に自分の考えたことを伝えたことを始まりとして writing の歴史をたどり、現代における宇宙（の知的生命体）に向けての情報発信は再び古代のように絵を描いて地球人の存在を伝えるものになっている、という人類のコミュニケーションの歴史が簡潔に描かれている。長文全体の長さは昨年度より短くなった。小問は5つで、記号選択が2問、和訳が1問、説明記述が2問。

問1 ① 「数千年前」から始まる長文冒頭の空所。直後の文の主語 He が木の枝を使って線を描いていることから、空所にはまずこの He の説明が入ると推測できる。正解は（イ）。選択肢の訳は「丸太の上で静かに休んでいたある男が一本の枝に手を伸ばして拾い上げ、それを使って足下の砂の上に線を引き始めた」。

② though から始まる従節の後の主節が空所になっている。従節の意味は「彼ら（男が砂の上に描くものを周囲で見っていた人々）はすぐに魚や鳥、人間といったなじみのあるものの形を認識したのだが」。この従節の「すぐに認識した(at once recognized)」と対比になる「わかるのにもう少し時間がかかった(took a bit longer)」が含まれる（ウ）が正解。選択肢の訳は「彼らは、男がこれらのなじみのある形をこの独特なやり方で並べることで伝えようとしていたことが何であるのかがわかるまでにはもう少し時間がかかった」。

③ but を挟んで空所と対比される前の文は「こうした人々が砂に残した図像はすぐに風にかき消されてしまった」。images は残らなかったが、ideas は残ったという対比が推測できるので、正解は（ア）。選択肢の訳は「彼らの新しい発想はゆっくりと成長していき、人類を作り変えてしまった」。「人類を作り変えた」が意味するのは空所の後の文にある「書くこと(writing)」の発見である。

問2 下線部和訳。主語の It が指すものは直前の文の主語 writing。ダッシュ記号（—）直後の farther は前の much farther than …の farther を繰り返していることから、「単なる音が伝えるよりもはるかに farther である」に「距離と時間において farther である」という情報を追加していると考えられる。一文でまとめて訳してもよいが、ダッシュの前後を別々の文に区切って訳すこともできる（別解）。farther の訳は「距離」に関しては「遠く」で問題ないが、「時間」に関しては「先（の未来）まで」と訳したほうが適切。

問3 下線部 (B) と (C) の違いを説明する問題。いずれの下線部も直後の in which から始まる関係詞節で内容が述べられている。下線部自体はそのまま英単語で表記するか、「前者・後者」とする程度でよいだろう。

問4 選択肢（ア）pictographsと（イ）ideogramsの説明は第5段落にある。（ア）が単になじみのあるものを絵で表現するのに対し、（イ）は抽象概念（例えば悲しみや勇敢さなど）を表現するところに違いがある。（ウ）（エ）は問3の解答を参照。空所④の直前では「地球外へと私たちの考えたことを伝える最初の努力は非常に古風な形態をとった」と述べられている。空所はこの「非常に古風な形態」に該当するものになる。空所の直後では、宇宙船に載せられた銘板には「2人の人間を描いた単純な線描」「2人の背後に宇宙船パイオニアの外形」「2人の人間の図が位置する場所」が描かれていることから、長文の冒頭で述べられていた、古代の人が砂の上に線で描いて考えたことを伝えようとしていたことを「非常に古風な形態」と表現していると推測できる。したがって、正解は（ア）pictographs。

問5 下線部(D)の訳は「そして、私たちはもはや砂の上に線を引いたりはしない。今や私たちは自分たちが考えたことを宇宙という何もない空間に書き込むのだ」。但し、この問題は単純な和訳問題ではなく「意味を説明しなさい」とあることから、下線部を訳しただけでは不明瞭な部分を他の本文の箇所を参照して明確に説明する必要がある。また、下線部が「古代」と「現代」の変化を述べていることにも注目し、解答はその変化がわかるようにまとめる。下線部(D)を含む本文最終段落では、古代と同じように今でも人類が絵を描いて思考を伝達しようとしているが、その手段が「木の枝」から「巨大な電波望遠鏡」へと変わったことが述べられている。この手段の変化が、「砂の上に線を引く」から「自分たちが考えたことを宇宙という何もない空間に書き込む」という前述の手段を用いた行為の変化に対応する。

#### 【個別分析設問Ⅲ】 会話文＋意見論述英作文

昨年同様、2人の会話を踏まえて、本文の空所補充と条件付き英作文に答える問題が出題された。会話の内容は、大学で履修単位を1つ落としたJoshと彼を慰めるSabrinaのやり取りだが、後半でJoshが転居したことが話題となっている。問題1)は会話中の空所4か所に適切な語句を選択する問題。文脈・選択肢ともそれほど紛らわしくはないだろう。2)は表の情報を利用して、自分が大学一年生になったら住みたい居住施設を1つ選択し、その理由を3つ述べて英文で説明する問題。それぞれの理由に少なくとも1つのpersonal detailが必要な点は昨年と同様だが、今年度は解答全体の語数が少なくとも80語という条件が設定されている。

##### 1) 語句の空所補充

①単位を1つ落としたJoshに「余分な授業が1つだけでしょう」と述べる前なので、「大した問題じゃないわよ」となる(d) a big dealが正解。②Joshを励まして「くじけないで」と言った後なので、「やり通せる」の意味になる(a) make it through。

③アパートの賃貸契約が（ ）なのでどこか新しいところに住みたかった」という文脈で当てはまるのは「(契約が)切れる」という意味の(b) ran out。④Joshが今まで住んでいたアパートに関して「悪くなかったと思うよ。でも騒音に（ ）できなかった」とつながる文脈なので、「我慢できなかった」の意味にしたいが、(c) stand withはwithが不要なので、今回は選べないことに注意する。したがって、「騒音に対処する」の意味になる(d) deal withが正解。

2) 条件付き英作文（指定語数は少なくとも80語）

アパート、寮、シェアハウスから1つ選択する。アパートの場合は、「スペースの広さ」「学校への適度な距離」「共用ではない」などが理由として考えられる。Personal detailはそれぞれ、「本がたくさんある」「地下鉄で読書に都合がいい」「静かな環境で勉強に集中したい」を挙げてみた。寮を選択した場合は、「他の学生との交流」「電気代が無料」「家賃が安い」を理由として挙げ、それぞれに「お互い助け合う人間になりたい」「夜遅くまで読書・研究しても電気代がかからない」「親への負担を掛けずに済む」をpersonal detailにした。シェアハウスでは、「通学時間が最短」には「ラッシュアワーに公共交通機関に乗りたくない」、「家賃が安い」には「寮の方が安い、バス代を合わせるとあまり差がない」、「インターネットが無料」には「ネットでビデオをたくさん見るから」をpersonal detailとして挙げた。

今回語数の条件が追加されたのは、昨年度personal detailにほとんど言及しなかった答案が多かったためではないかと推測される。「表に記載されている情報(10語以上)」+「自分のpersonal detail(10語以上)」で作ることを念頭に置いて練習しておくとういだろう。

#### 【個別分析設問Ⅳ】 英作文

例年は下線部訳を問う出題だったが、今年度は語句整序と同義文選択の設問が加わった。和文英訳以外の設問は、語彙力と構文力、加えて読解力があれば無難にこなせる。

問題に採用された日本文は話体で分かりやすいが、英文に直す場合に用語の選択を工夫することが求められる。特に筆者の用いているカタカナが、そのまま英語で通用するのかどうか、慎重に考えてから英文を組み立てた方がいい。

#### 問1 整序

選択肢の一つ余分なものがある。動詞がindicatesとrefersと二つなので、その選択を誤らないこと。「ある情報の集合に対する距離」という部分で、前置詞がtoではなくfromを使えないと正解は得られない。距離は「隔たり」なので、「～からの距離」と読み換えればいい。toの方は、「～を言います」のところでrefers to

として用いる。

## 問2 和訳

「オリジナル」、「教養」、「センス」に注意。

- ・ original は限定用法が主なので、originality として用いる。
- ・ 「教養」は、名詞では culture, education. 思いつかなければ、問1の選択肢を参考に、a set of knowledge でもいい。形容詞を生かして、to be cultured, to be well-educated, to be learned, あるいは、a learned person, a cultured person などを用いる。
- ・ sense を単独で用いるのは不自然。教養との対比を踏まえ、生まれながら持ち合わせているものという含みをもつ語句を見いだしたい。解答例以外では、some kind of gift, creative mind, inventiveness など。

## 問3 同義文選択

教養とオリジナルは「相反する」が、教養よりも「オリジナルがあるほうがまし」という主張が読みとれるかどうかが決め手。

和文英訳の基礎に、語彙力、語法や構文理解が必要なのは言うまでもない。しかし、そこは前提であり、そこにとどまっていたら表現力は身につかない。多様な英文を読み、自分の気持ちや考えを英文でまとめる習慣を持ちながら、英語の発想に習熟する努力をつづけてほしい。また、今回の問題文のようにカタカナが散りばめられている場合に備え、そのカタカナがそのまま英語で通用するかどうか識別する力も必要になる。そのためには、言葉は記号そのものではなく、気持ちや考え、指示内容を伝えるはたらきなのだという理解で、和文にも英文にも柔軟に向き合っていてほしい。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

【文系】

文学部	60 %
教育学部	60 %
法学部	65 %
経済学部	60 %

【理系】

理学部	65 %	歯学部	65 %
医学部	75 %	薬学部	65 %
保健／看護	60 %	工学部	65 %
“ 放射線	60 %	農学部	65 %
“ 検査	60 %	経済学部	65 %

3 来年受験する生徒へのアドバイス

今年度の出題全体に関して留意すべき特徴は大きく分けて2点ある。第一に、長文読解問題における記述解答作成の難しさである。長文それ自体は語句や構文の面でも内容面でも過度に難しいものではないが、自分が読み取った内容を設問の条件や解答欄の大きさに合わせてどのような日本語で表現するかに苦勞する受験生は少なくないと思われる。特にⅠのように「具体的に」述べることを求められる場合、詳細な情報を盛り込みつつも解答欄に収める技術が必要とされる。そのためには、一つ一つの英文を機械的に和訳するのではなく、本文の内容の重要度を自分自身で判別しながら長文全体や段落を要約する練習が欠かせない。第二に、英作文の解答を作成するにあたっての「言い換え」の重要性である。Ⅳの「教養」をどのように英語で表現するかにしても、Ⅲで表に与えられた名詞表現を自分の解答の中で動詞と組み合わせたり、他の品詞で表現し直したりするにしても、同じ意味内容を異なる語句、異なる品詞で言い換えて表現する練習をすることで「英語にしにくい日本語」の英作文に対応できる実践的な記述力を身につけることが求められている。

